

【論文】

長崎の教会の立地に関する研究

STUDY ON THE LOCATION OF CHURCHES IN NAGASAKI

宮崎 寛人*¹, 富田 英夫*¹,
Hiroto MIYAZAKI and Hideo TOMITA

Abstract : This study focuses on the location of churches in Nagasaki Prefecture. In particular, this paper explores the similarities and differences in the location of 38 churches. First, the three-dimensional data of all cases are analyzed and classified into six types. Then, the relationship between the contour interval and the length of the church is considered. Consequently, we clarified that (1) close relationship existed between the size of the contour interval and the layout of the church and (2) the church faced both the nearby main road and the direction of the sea.

Keywords : NAGASAKI, Church, Location, Surrounding environment, Contour

長崎, 教会, 立地, 周辺環境, 等高線

1. 序

1-1. 研究背景

日本における現存最古の教会建築とされる大浦天主堂(旧大浦教会堂、1864年)を筆頭に、長崎の各地には多くの教会が建てられてきた。こういった長崎の教会の建設は、パリ外国宣教会から派遣された宣教師が指導したとされる(参考文献1)。建設において、教会の敷地選択に類似性はないのか、というのが本研究の着目点である。

1-2. 既往研究

長崎のキリスト教会群については三沢、川上、林らによる教会の形式を細部に至るまで分析・分類した研究の蓄積(参考文献2ほか)がある一方で、教会を建てる上で、建築形式に強い影響を与えたと考えられる立地についての分析は多くない。岩井、山田、片野らは長崎県に所在する計18件の教会の立地・配置手法について実施調査を行っている(参考文献4)。久保、松尾らは長崎県の五島地区に所在する教会周辺の敷地断面について調査し分析している(参考文献5)。

1-3. 研究目的と方法

そこで本研究は、長崎のキリスト教会群が建てられた立地を分類し、立地形状の共通点や相違点を明らかにする。研究の方法としては、2章で長崎の教会について既往研究の文献から読み取られる教会の外形の寸法と立地の地形データを組み合わせ、立地の整理と周辺環境、立地選定の関係を分析する。

2. 立地形状分類の考察

2-1. 長崎の分析対象教会の詳細

分析対象の教会は創建当初から場所が変更ない教会及び移築、増築の履歴がある教会を含めた計38棟である。

表 1. 分析対象の教会

No.	教会	竣工	木造	煉瓦造	石造	RC/SRC	形式	エリア
1	大浦天主堂	1864		○			五廊式	長崎
2	旧大明寺教会	1879	○				三廊式	長崎
3	旧五輪教会堂	1881	○				三廊式	下五島
4	出津教会堂	1882	○	○			三廊式	長崎
5	江袋教会	;	○				三廊式	上五島
6	大野教会堂	1893	○		○		単廊式	上五島
7	神ノ島教会	1897		○			三廊式	長崎
8	清心修道院教会	1898		○			単廊式	長崎
9	宝亀教会	;	○	○			三廊式	平戸
10	黒島天主堂	1902	○	○			三廊式	佐世保
11	旧網ノ浦教会	1903	○	○			三廊式	上五島
12	冷水教会	1907	○				三廊式	上五島
13	堂嶋教会	1908		○			三廊式	下五島
14	旧野首教会	;		○			三廊式	小徳賀
15	青砂ヶ浦教会	1910	○	○			三廊式	上五島
16	楠原教会	1912		○		RC	三廊式	下五島
17	山田教会	;		○			三廊式	平戸
18	福見教会	1913		○		RC	三廊式	上五島
19	土井ノ浦教会	1915	○			RC	三廊式	上五島
20	大曾教会	1916		○			三廊式	上五島
21	江上天主堂	1918	○				三廊式	下五島
22	田平天主堂	;	○	○			三廊式	平戸
23	嵯峨島教会	;	○				三廊式	下五島
24	頭ヶ島天主堂	1919			○		単廊式	上五島
25	黒崎教会	1920		○			三廊式	長崎
26	半泊教会	1922	○				三廊式	下五島
27	貝津教会	1924	○				三廊式	下五島
28	磨山教会	;	○				単廊式	長崎
29	山野教会	;	○				三廊式	平戸
30	中ノ浦教会	1925	○				三廊式	上五島
31	紐差教会	1929				RC	三廊式	平戸
32	浅子教会	1930	○				三廊式	佐世保
33	神崎教会	;				RC	三廊式	佐世保
34	浜脇教会	1931				RC	三廊式	下五島
35	馬込教会	;				RC	三廊式	長崎
36	三浦町教会	;				RC	三廊式	佐世保
37	水ノ浦教会	1938	○				三廊式	下五島
38	浦上教会	1959				SRC	単廊式	長崎

*1 建築都市工学部建築学科

2-2. 各立地形状の分類

表1にまとめた長崎県内に現存している計38棟の教会を立地形状ごとに分類し、それら全ての事例の3Dデータを確認する。立地形状は平地(宅地)、平地(農地)、平地(海岸部)、傾斜地(凹)、傾斜地(凸)、傾斜地(凹凸なし)の6種類に分類した(図1~6)。

地表の高低差が見えるように3Dデータには高さ10mごとに等高線を加え、それぞれの教会が等高線に対してどのような形で敷地の選定が左右されているのかを表に数値として表す。3Dデータの図は高さ方向倍率一律1倍で揃えて表示し、等高線を10mごとに記入した(図1~6)。

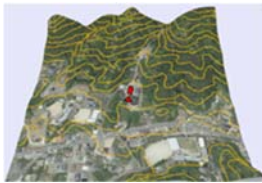


図.1 平地(宅地)

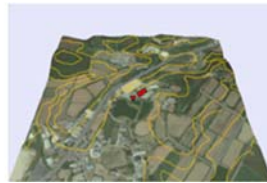


図.2 平地(農地)

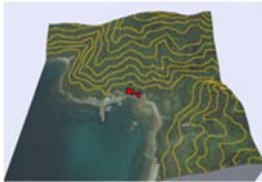


図.3 平地(海岸部)



図.4 傾斜地(凹)



図.5 傾斜地(凸)

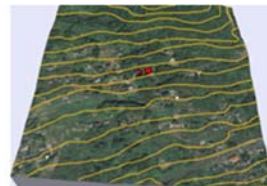


図.6 傾斜地(凹凸なし)

凡例(図1~6共通)

赤い四角: 教会の輪郭、赤い三角: 教会正面

(1) 平地(宅地)

平地の宅地には、38棟中6棟の教会が該当している。教会周辺に建物が多いことから平地の宅地として分類している。No.10,11,33,36,37の教会は周辺に建物がありながら、道路など人が移動する動線に近いような場所に建てられているものが多く、教会の正面もその向きに合わせて建てられている。No.24の教会は他の教会に比べて周辺の建物は少なく大通りから離れているが、やはり人の動線に向くように建てられている。

教会の片側が山であったり、山に挟まれた場所であったりもするが、山を向いて建てられている教会がないこと、それから平らな地にあることから、教会からの眺望よりも意図として人の動線を考慮した場所に建てられたと読み取ることができる。

(2) 平地(農地)

平地の農地には、38棟中5棟の教会が該当している。

こちらの平地も周辺に建物はあるが、宅地に比べて教会周辺に畑や田んぼが多いことから平地の農地と分類している。No.16,17,22,29の教会は宅地と同様に周辺に畑や田んぼがありながら、道路の脇など人が移動する動線に近いような場所に建てられている教会が多く、入口もその向きに合わせて建てられている。No.27の教会は他の教会とは違い、大通りに近くもなく人の動線を考慮して建てられているようには見えない。

このように平地の農地も宅地同様に、教会からの眺望よりも人の動線を考慮した場所に建てられた教会が多いと読み取ることができる。

(3) 平地(海岸部)

平地の海岸部には、38棟中5棟の教会が該当している。こちらの平地は宅地や農地の内陸の場所とは違い、海に近い海岸の側に教会があることから平地の海岸部と分類している。海岸近くの港町に建てられている教会で、決まって海側の反対には山があり海と山に挟まれたような場所である。周辺の建物も決して多くはなく、訪れるには現在でも困難な場所が多い。正面方向はNo.3,13,30の教会は等高線に並行に向き、No.26の教会は等高線に垂直で山側を向いている。No.32の教会は海側を向いており、全体としてあまり統一性がない。該当する教会が海岸部だからと海側を向いて建てられているわけではない。

(4) 傾斜地(凹)

傾斜の凹には、38棟中2棟の教会が該当している。傾斜の等高線が凹んでいるような場所に教会が多いことから傾斜地の凹と分類している。No.1,15の教会は、山の窪みにバシリカ式の教会の長手方向が等高線に対して垂直に入るような場所で、教会もその窪みに上手く収まるように建てられている。周辺には建物も多く、正面が開けた方角を向いている。開けた方角以外は山で閉ざされているので教会からの眺望は限定されるが、人が多い場所に教会が向いているため、その方角から人の目に入りやすい高い場所を選定し、建てられていると考えられる。

(5) 傾斜地(凸)

傾斜地の凸には、38棟中7棟の教会が該当している。山の傾斜の谷と谷の間に突出した尾根のような場所に教会が多いことから傾斜の凸と分類している。No.4,31,35,38の教会のようにある程度敷地に余裕がある場所では、教会が等高線に対して垂直で、凸の地形に上手く収まるように建てられている。ほぼ全ての方角が大きく開けており、眺望に優れる教会が多い。No.7,23の教会は逆に敷地が狭く建物の向きも等高線に対して平行に限定されている。該当するほぼ全ての教会が、傾斜の凹と同様に周辺に建物が多く人の目に入りやすい高い場所を選定し、建てられていると考えられる。ただ、No.14の教会は当時周辺にあった村が現在は廃村になっており、建物だけ残っている。

